

学習に役立つ資料やツールを紹介したパスファインダー。今号では、図書館の学習・研究支援について紹介します。



目次

附属図書館長就任挨拶	P.1
大阪大学職員研修	P.2
図書館の講習会を紹介します	P.3
図書館TAからラーニング・サポーターへ	P.4-5
2016年度第1回Springer Nature Publishing Academy 開催報告	P.6
NEWS 図書館からのお知らせ	P.7-8

館長略歴

●八木康史

大阪大学基礎工学研究科修士課程修了。工学博士。

1985年より三菱電機株式会社応用機器研究所研究員、大阪大学基礎工学部助手・講師・助教授、大阪大学大学院基礎工学研究科助教授、大阪大学産業科学研究所教授・所長等を経て、2015年より大阪大学理事・副学長。

専門は、全方位視覚センシング、人画像理解、医用画像処理等。特に、人の歩く姿から個人を識別する歩容認証技術の研究で知られている。

附属図書館長就任挨拶



附属図書館長
(研究担当
理事、副学長)

八木 康史

2016年8月26日図書館長拝命、大学図書館について考える機会を頂いたと思っています。この半年の図書館長生活で、大学図書館の役割、さらに、その役割の変化を感じています。本就任の挨拶では、約6ヶ月間で感じたことを素直に綴りたく思います。

まず、私が持つ図書館の古い印象は、大量の蔵書が立ち並ぶ書庫と静かな閲覧スペースでした。もちろん、情報処理社会が進む中、研究のやり方が変化し、特に理工系分野では、紙媒体の研究資料の価値は減っています。つい最近までの私の中の図書館は、まさに、研究に不可欠な電子ジャーナル・データベース等電子的情報基盤資料等のコンテンツの管理場所です。蔵書や閲覧スペースの必要性は減ってきていると思っていました。

10月25日、国立七大学附属図書館協議会で東北大学附属図書館を訪れる機会を得ました。そこで2つの発見をしました。第一が、図書館の役割の一つが、昔から変わらない、貴重なコレクション保管にあること。明治の思想家・教育者として有名な狩野亨吉の蔵書、資料群などが収められた書庫を散策し感銘を受けたことがきっかけです。第二は、図書館が学生にとっての書齋であり、かつ、友人とのコミュニケーションの場であること。東北大図書館には、カフェもあり、

各自、居心地の良い場所を見つけ、多様な過ごし方をしていること。

これらの発見から図書館への想い、考えが変わりました。図書館は、知の集積拠点(コンテンツとコレクション)であるとともに、集積された知を活用したコミュニケーション空間でなければならないということです。当たり前のことかもしれませんが、私にとってはすごく新鮮なことでした。ちなみに、大阪大学においては、貴重コレクション室新設により各館の貴重資料を総合図書館に集中化することで、利用促進につなげようとしています。

箕面新キャンパス構想があることはみなさんもご存知かと思います。北大阪急行が千里中央駅から延線となり、新たに生まれる箕面船場駅前に、箕面キャンパスが移転します。ここでは、箕面市立図書館と大学附属図書館が1つの建物に入り、市民も学生も自由に両図書館を行き来できるようになります。図書館の公開促進が一気に進みます。2021年春の移転に向け、箕面新キャンパスで大学がどのような形で図書館の維持管理・運営するか、真剣に考えないといけない時を迎えました。未来の大学図書館像を新キャンパスの地で模索できればと思います。

最後になりますが、大阪大学は総合型研究大学です。その観点からいけば、図書館の重要な役割は、やはり研究支援だと思います。知の集積拠点であることはもちろんですが、知を持っているだけでは宝の持ち腐れです。様々な知を活用した研究支援が重要となってきます。海外の大学図書館も知の活用である、教育研究のためのIR機能の強化が謳われています。知の集積拠点である図書館職員の活躍の場となることを期待します。

●佐藤浩章

大阪大学全学教育推進機構
教育学習支援部准教授。

専門は高等教育開発（授
業・カリキュラム改善の具
体的手法の開発・実施・評
価）、技術・職業教育学。

2002年より愛媛大学大
学教育総合センター教育シ
ステム開発部講師・准教授、愛
媛大学教育・学生支援機構教
育企画室准教授・副室長等を経
て、2013年10月より現
職。

●堀一成

大阪大学全学教育推進機構
全学教育企画開発部准教授。

専門は多言語資源、数理工
学、コンピュータ・リテラ
シー、アカデミック・ライ
ティングなど。

1996年より大阪外国語大
学外国語学部国際文化学科言
語・情報専攻講師・助教授、
大阪外国語大学情報処理セン
ター長、大阪大学大学教育実
践センター准教授等を経て、
2012年4月より現職。

注：

(1) 学習の達成度を測定する
ための基準表のこと。達成基準
を明確に記述することで、定性
的評価が可能となる。レポート、
授業、カリキュラムなどの
単位で設定できる。

(参考：高等教育のための情報
リテラシー基準 2015年版)

(2) 『阪大生のためのアカデ
ミック・ライティング入門』

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/54512>

(3) 『「阪大生のためのアカ
デミック・ライティング入門」
ライティング指導教員マニユ
アル』

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/54513>

(4) 『学習支援担当者のため
のライティング支援入門講座』

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/58038>

大阪大学職員研修 ～学習支援担当者のためのティーチング &ライティング支援入門講座～

2016年11月15日、総合図書館6階図書館ホールにて「学習支援担当者のためのティーチング&ライティング支援入門講座」を開催し、図書館職員を中心に学内外から56名の参加がありました。学生のアクティブ・ラーニング（主体的な学び）の促進に向けて、教職員はそれにふさわしい場の提供とサポートを行う必要があります。とりわけ今後、重要性が増すと予想されるティーチングとライティングの支援について2人の先生にお話しいただきました。

学習支援者のためのティーチング入門講座（講師：佐藤浩章氏）

この講座では、人間の記憶のメカニズムと、それに基づいて学習者の記憶に残るティーチングをすることの重要性についてお話しいただきました。途中、参加者間でのプレゼンやワークが何度か設けられ、講座自体がアクティブ・ラーニングの実践となっていました。以下、講義のポイントをいくつか紹介します。

記憶に残るティーチング

人の記憶は、既存の知識と新しい情報がうまく結びつき、整理されてはじめて定着します。ティーチングを組み立てる時には、このメカニズムを念頭に置いて、伝えるべき情報の構造化や既有知との関連付け、学習者の注意を引くアプローチに留意する必要があります。さらに実際の講義時には、情報を厳選すること、下記で紹介するようなアクティブ・ラーニングを活用して、知識が学習者の経験として残るような工夫をすることが重要です。

アクティブ・ラーニング（主体的な学び）

聞くだけの講義形式では、知識はほとんど記憶に残りません。それに対して、学習者が能動的に参加する要素を加えれば、知識の定着率は劇的に高くなります。講座では短時間で行えるラーニング・パートナー法などをワークを交えて学びました。



学習支援者のためのライティング支援入門講座（講師：堀一成氏）

大阪大学での実践例をもとに、ライティング支援についてお話しいただきました。ワークでは、参加者間でライティング支援の際に困ったことについて話し合い、指導の際に重視するポイントをまとめたルーブリック⁽¹⁾を作成しました。以下、講義のポイントを紹介します。

アカデミック・ライティングの基本から

学内のアンケートによると、入学以前に2000字規模のレポートを書いた経験のない新生が約3割います。初めてアカデミック・ライティングに取り組む学生には、事実と考察の書き分けや文書の形式といった基本項目はもちろん、課題の意図を確認する、アイデアをまとめる、段階を踏んで書くなど、「課題をレポートにする」方法も教える必要があります。また課題の出し方や評価・フィードバックの方法など、教員の側にも工夫する余地があります。



阪大生のためのアカデミック・ライティング入門

阪大生のためのアカデミック・ライティング入門

大阪大学では、レポートの書き方をまとめた『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』⁽²⁾を新生に配布し、ライティングの基本をいつでも確認できるようにしています。また、この小冊子を使って教えるための『ライティング指導教員マニュアル』⁽³⁾も用意されています。

これらは、講義内で配布された資料⁽⁴⁾とともに、大阪大学機関リポジトリOUKAから自由に閲覧・ダウンロードできます。ぜひ参考にしてください。

図書館の講習会を紹介します

附属図書館各館では、学生の皆さんの普段の学習やレポート作成、卒論執筆に役立つ講習会を開催しています。今回は2016年9月以降に開催した講習会から一部を紹介いたします。今後もたくさんの講習会を計画していますので、ぜひご参加ください！

◆総合図書館

としょかん秋の卒論まつり

(2016年10月17日～28日)

卒論執筆の本番シーズンとなる秋、学部3-4年生を対象に3つのテーマの講習会を計16回開催しました。



1. CiNii再発見!! 文系編/理系編

日本語論文データベースCiNiiの効果的な検索法、リンクボタンの活用法、その他先行文献検索に有用なツールを紹介。

2. 論文を手に入れよう! 文献入手入門

論文本文を入手するための最短ルートを3ステップに分けて実践的に紹介。

3. ワークショップ 引用のしかた 参照文献リストを書いてみよう

実際に参照文献リストを作成しながら、引用のルールや形式を学ぶワークショップ。

参加者からは、「意外と知らないツールや図書館サービスが多かった」「論文作成に直結することを教えてもらえてよかった」などの感想が寄せられました。



学習・研究の 相談窓口

各館の参考調査カウンターでは、質問・相談を随時受け付けています。

下記のような、学習・研究に必要な文献や情報に関することなら、なんでもご相談ください。(平日9時～17時)

- ・ 卒論、レポートに必要な資料の探し方、入手方法
- ・ 各種データベースの検索方法、利用方法
- ・ ある事柄についての調査(図書館資料などを用いて調査し回答できる範囲内)

など

「図書館の人に聞くのはちょっと恥ずかしい…」

そんな時は、図書館のラーニング・サポーター(旧図書館TA)を利用してみては?

大学院生が、身近な先輩として、学習や研究の進め方、レポートの書き方など様々な学習相談に対応します。(授業期の平日のみ)

全員、英会話ができるので、留学生の方もお気軽にご相談ください!

詳しくは、今号の4-5頁をご覧ください。

どんな些細なことでもかまいません。皆さんのご利用をお待ちしています。



◆生命科学図書館

「特別研究(卒論)のための文献の探し方」レクチャー

(2016年11月16日・12月22日)

医学部保健学科看護学専攻のゼミ指導教員の依頼により、学部3年生を対象とした文献探索の基礎講座を開催しました。



講座は2回に渡り、第1回は医中誌Webを使用した日本語文献の探し方、第2回はPubMed、CINAHLを使用した英語文献の探し方について、検索実習を交えたレクチャーを行いました。

特別研究(卒論)に着手する学生にとって有意義なものとなるよう、実習では各自の卒論テーマに沿った課題を設定し、取り組んでいただきました。

◆理工学図書館

工学系の論文の探し方入門

(2016年11月8日・11日・16日・18日)

『工学系の論文の探し方入門』と題した講習会を理工学図書館ラーニング・commonsで開催しました。

内容を『超入門編』と『基礎編』に分け、11月8日、11日の『超入門編』では参考文献リストに挙がっている論文の探し方を、16日、18日の『基礎編』では研究テーマに沿った論文の探し方を中心に紹介しました。

4回でのべ25名の参加があり、「参考文献にある論文の探し方が分かったので、実際に調べてみたい」「JDreamIIIの存在、主題の意味等、有意義な情報を多数得られた」といった好意的な感想が寄せられました。



図書館TAからラーニング・サポーターへ

LS (IBTA) の 活動内容

●学習相談

授業でよくわからなかった箇所の個別指導、レポート・卒論作成やプレゼンテーションのアドバイスなどを行っています。

●進路・留学に関する相談

大学院進学や、研究室選び、海外留学など、経験に基づいてお話しします。

●パソコンの操作法の説明

●各種ミニ講習会の実施

アカデミックスキル、授業科目や専門分野の理解に役立つミニ解説、留学・進学・就職活動についての体験談など、様々な内容で企画しています。

●パスファインダーの作成

パスファインダーとは、あるテーマについての調べ方や学習の道しるべとなるものです。それぞれの専門を活かし、各テーマの学習に役立つ資料やツールなどを紹介しています。

各図書館で配布しているほか、図書館Webサイトからダウンロードすることもできます。

パスファインダー

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/pathfinder.php>

2017年4月より、図書館TA（ティーチング・アシスタント）は、ラーニング・サポーター（LS）と名称を変えて新たにスタートを切ることになりました。

大阪大学の4つの図書館全てにラーニング・サポートデスクを設け、様々な研究科の大学院生スタッフが、皆さんの大学での学びをサポートします。日頃の学習で困ったことだけでなく、学生生活や留学・進路まで、身近な先輩として幅広い質問・相談に応じます。ぜひご利用ください。

生命科学図書館でも学習相談を開始！

2016年10月から、生命科学図書館でも、歯学研究科・言語文化研究科・情報科学研究科・生命機能研究科・人間科学研究科・工学研究科に所属する計7名の図書館TAによる学習相談が始まりました。

スタッフは全員、日本語と英語による対応が可能で、一部は中国語等その他の言語にも対応しています。大学に入学したばかりの新生から、大学院進学を目指す学部上級生、海外からの留学生まで、様々な立場の学生をサポートする体制をとっています。

また、窓口での相談対応のみならず、学生目線での図書館資料の購入選定や、専門分野のおすすめ本を紹介するリーフレット（パスファインダー）の作成、講習会の企画を行ったりと、その活動は多岐に渡ります。専門知識を活かした今後の活動に、ぜひご期待ください。

どんな相談に乗ってくれるの？

各スタッフの専門は様々です。たとえば・・・

<2016年度>

歯学研究科D3・歯学部の定期試験対策、歯科医師国家試験や臨床研修に関すること

言語文化研究科D1・中国への留学のこと、中国の歴史文化について

情報科学研究科M1・専門的なパソコンの使い方やプログラミングについて

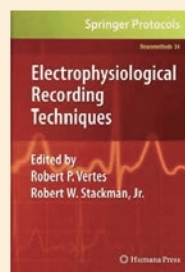
生命機能研究科D1・神経学や生物学に関すること、TOEFLテストについて

人間科学研究科M1・社会学系の文献検索について、研究計画書の書き方について

工学研究科M2（2名）・実験計画やプレゼン方法、就職活動のこと、公務員試験のこと

このような専門的な内容以外でも、レポートの書き方や基本的なパソコンの使い方など、今さら誰にも聞けないと思ってることも気軽に相談できます。

おすすめ図書の紹介①



Humana Press
(2011)

Electrophysiological Recording Techniques

Robert P Vertes, Robert W Stackman編

神経科学の分野では、電気生理学的記録は、ニューロン細胞のリアルタイム活動を明らかにする重要な方法です。様々な電気生理学的記録技術を適用することにより、脳内の情報処理およびコミュニケーションのモデルを、イオンチャネル、スパイクニューロンといった顕微鏡レベルから、脳の局所活性化および同期化といった巨視的レベルまで明らかにすることができました。したがって、これらの方法論に精通していることは、神経科学を理解する上で非常に重要です。

本書は、電気生理学の基礎と神経科学への応用について理解したい学生にお勧めの一冊で、単一ニューロンの記録から離散脳領域および複数の脳領域にわたる磁場電位の記録までの現代の神経生理学的方法が記載されています。今日の基礎研究レベルと臨床現場の両方で使用されている技術について理解する大きな助けとなる本です。

(生命機能研究科D1・NGUYEN QUYNH MAI)

ミニ講習会・展示企画(2016.9～2017.1)

◆総合図書館

(講習会)

- ・銅の不思議 ～美しさを支える化学～
- ・ジャズにふれてみる
- ・デザイン史を学ぶ
北欧フィンランドデザイン
- ・メキシコ系ゲストワーカーと
アメリカ合衆国
- ・児童労働とフェアトレード
- ・WolframAlphaを使ってみよう！

就活・進学応援！シリーズ

- ・グループディスカッションのすすめ
- ・「教職」から考える進路
- ・Tips for 理系他大学院・他研究室進学
- ・国際系インターンシップにチャレンジしてみませんか？

(展示)

- ・TA企画「村上春樹の“小説以外”を集めてみました。」

◆理工学図書館

(講習会)

- ・使い捨ての“熱”に再び“命”を与えよう
～資源再利用技術：熱電変換材料～
- ・次世代半導体は社会をもっと豊かにする！
- ・知らないと損をする!?クレジットカードの実際
- ・Monacaを使ってスマホアプリを作ってみよう！！
- ・日本発！驚異の泡ナノバブル
- ・美しい工学に隠れた数字
- ・人工衛星の軌道と姿勢制御

◆外国学図書館

(講習会・座談会等)

- ・図書館TAにチューターしてもらおう
- ・フィールドワークを国内でやってみよう
- ・ブダペストの史跡めぐり
～ハンガリーをより楽しむために～
- ・るくす大学院進学相談週間 ―2016冬―
- ・トランプ現象とポピュリズム

芸術の秋ウィーク

- ・『火花』について語る
- ・『コンビニ人間』について語る
- ・映画好きの午後

就活応援ウィーク

- ・日本一気楽な就活教室
- ・マスコミ就活実践講座
- ・『何者』について語る
- ・芸術と働くために

ラーニング・サポートデスク

授業期の平日に、以下の場所以待機しています。事前予約不要ですので、いつでもお気軽にご相談ください。

いつ、どの専門分野のスタッフがいないかについては、図書館Webサイト等に掲載されている時間割をご確認ください。

総合図書館

場所：B棟2階
ラーニング・commons

場所：C棟2階
グローバル・commons
※英語に堪能なスタッフが担当します。

生命科学図書館

場所：4階
学習スペース

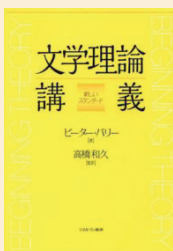
理工学図書館

場所：東館1階
ラーニング・commons

外国学図書館

場所：1階
ラーニング・commons
「るくす」

おすすめ図書の紹介②



ミネルヴァ書房
(2014)

文学理論講義：新しいスタンダード

ピーター・バリ著 高橋和久監訳

よく知人から、「文学を“研究”するとはどういうことか」と尋ねられます。明確な答えを用意することが出来ない私ではありますが、少なくともどういったツールを用いて文学テキストを読み解くのかはこの一冊に凝縮されています。相当な分量の本ですが、少しずつ読み進めていく度に、文学への向き合い方に変化がもたらされることでしょう。

(言語文化研究科M1・近藤佑樹)

講師紹介

●Jeffrey Robens

Editorial Development Manager, Publishing Development, Nature Research, Springer Nature.

ペンシルベニア大学（米国）にて薬理学の博士号を取得。RIKEN、京都大学、A-Star（シンガポール）などの機関・大学に在籍、研究者としてのキャリアを経て現職。20年以上の学術的経験を持ち、数多くの論文を執筆している。

現在はアジア・中東地域における科学的認知度と論文執筆スキル向上のために精力的に活動、これまでに200件以上のトレーニングワークショップを開催している。

2016年度第1回Springer Nature Publishing Academy 「Natureや一流国際誌へ挑もう： Springer Nature Publishing Academy」 開催報告

経営企画オフィスURA部門

姚 馨
大屋 知子

2016年12月9日、附属図書館と経営企画オフィスURAプロジェクトの共同企画・運営のもと、文部科学省研究大学強化促進費補助金の支援を受け、研究成果の国際的発信の促進を目的として、「Natureや一流国際誌へ挑もう：Springer Nature Publishing Academy」を開催しました。

講師のJefferey Robens氏はSpringer Nature社のEditorial Development Managerであり、論文の査読において豊富な経験を有するとともに、英語を母国語としない研究者を対象としたアカデミック・ライティング指導に長けています。今回は、Nature等インパクト・ファクターの高い海外ジャーナルに投稿する予定のある約100名の教員、大学院生等を対象に、同氏から英語論文の書き方や投稿戦略の話をしていただきました。3時間45分にも及ぶワークショップでしたが、終始活気に満ち溢れていました。

ワークショップは「科学英語の書き方」「論文の構造」「投稿戦略」「インパクト・ファクターの高いジャーナルへ投稿する際の注意点」の4部で構成され、それぞれ演習問題もあり、参加者が手を動かしながら学ぶ、活発で有意義な時間でした。

参加者からは、「このワークショップは初心者だけではなく、ある程度論文を出しているベテラン研究者にとってもとても役に立つ」、「実例と演習があるお陰で、内容をより理解しやすかった」等の声が届きました。



講師のJeffrey Robens氏



講義の様子

今後の展望

附属図書館と経営企画オフィスURAプロジェクトでは、以前より、独自に様々な講習会等を企画・開催してきましたが、2015年度からは、共同主催でイベントを開催する等の連携を進めています。

このような連携によって、より学内研究者のニーズに合ったトレーニング等の機会を作ることができつつあります。また、会場でイベント内容に関連した図書展览展示して図書館所蔵資料の紹介を行ったり、使用言語が英語であるイベントの開催回数を増やして外国人研究者も参加しやすい環境を整備したりといった、共同主催ならではの活動も進めています。

本学では、多岐に渡る研究分野において多くの研究成果が生まれています。これらの成果を積極的に世界に発信したい研究者の力添えになることを目指し、今後も、過去のセミナーやワークショップ参加者からのフィードバックを参考にしつつ、このようなイベントを積極的に企画していく予定です。

NEWS☆図書館からのお知らせ(2016.9~2017.1)

学生選書2016と交流会を実施

◆図書館に置いてほしい本を学生の皆さんが店頭やWebで直接選べるイベント、学生選書を今年も開催しました。参加者同士の交流会では、各自のオススメ本の紹介も行いました。今年は教員2名のゲスト参加もあり、教職員と学生の交流にもつながりました。



店頭選書



交流会

- 店頭選書
9月28日 参加者9名
- Web選書
9月12日~10月4日 参加者34名
- 交流会
10月13日 総合図書館グローバル・commons
参加者5名(教員2名を含む)

【学生選書担当者のコメント】

交流会は、初対面の方が多くにも関わらず、たいへん盛り上がりました。オススメ本を通して、お互いにとって充実した交流の機会になったようです。本を選ぶだけでなく、こういったイベントも行っていますので、また機会があれば、多くの方に参加いただければと思います。

職員の長期貸出開始 [総合]

◆10月より、職員の方も長期貸出が利用できるようになりました。総合図書館の「書庫」「漢籍」「自動書庫」所在の図書に限り、30冊まで6ヶ月間借りることができます。

映画字幕翻訳講座2016

in 大阪大学箕面キャンパス [外国学]



◆11月7日、外国学図書館4階AVホールにて、大阪大学大学院言語文化研究科・大阪映像文化振興事業実行委員会(アジア映画祭)主催、外国学図書館共催による「映画字幕翻訳講座2016」を開催しました。松岡葉子さん(字幕翻訳家)、惣川雅子さん(字幕制作ディレクター)をお招きし、映画字幕翻訳の講義とワークショップを行いました。

【参加者の感想】

- ・限られた字数で原文の意図するところや、文化背景まで伝えるのは非常に難しいと分かりました。
- ・演習がとてもいい体験になりました。自分でやってみることで、翻訳の難しさを痛感しました。

教員著作資料 ご紹介①

Yorio Otaka, Catherine Croizy-Naquet 編

L'histoire ancienne
jusqu'à César
: deuxième
rédaction



(Paradigme, 2016)

フランス語による古代史としては13世紀初頭から14世紀にかけていくつかの作品が現れた。本書はそのうちの1つ『L'histoire ancienne jusqu'à César (カエサルまでの古代史)』に関するもので、文学的解説と言語研究、難語解、固有名詞表からなる。

本文は117葉、約30,000行からなり、古代の伝承、100葉を占めるトロイアの挿話に、Ovidius (オウィディウス)の『Heroides (英雄の女たち)』の訳、14世紀までの伝承の諸要素を挿入した散文物語である。

西欧の諸民族の故郷であると同時に、模倣し、否定し、超越すべきギリシアの都市トロイアが終に崩壊する過程を叙述することにより、中世を通じて存続した古代文明に対する幻惑と、西欧社会の根幹であるキリスト教義に対する批判が反映されている。

大高順雄名誉教授
(言語文化研究科)

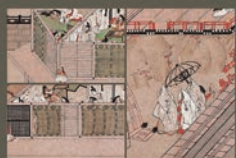
教員著作資料 ご紹介②

絵詞研究会編

時雨物語絵巻の研究

時雨物語絵巻の 研究

絵詞研究会編



臨川書店

(臨川書店、2016)

『時雨』は室町時代物語（お伽草子）に分類される物語の一つで、王朝物語的な世界をもった作品です。本書に取り上げる『時雨物語絵巻』は、永正十年（1513）の書写になる、現存する同物語の最古本にあたります。これまで、一部の研究者には存在が知られていたものの、まとまった研究は備わっていませんでした。このたび、古典文学研究者と美術史研究者からなる絵詞研究会が輪読してきた成果をもとに、釈文・現代語訳、諸本対照表、研究論文（四本）として一書にまとめて公刊することとなりました。

その本文は古態を残していると見られ、読解にあたっては難解な点もありますが、この本をきっかけに、多くの人の眼に留まり、研究が深まってゆくことになればと思います。古典文学研究者のみならず、美術史に関心のある方にも手に取ってほしいと思います。

柴田芳成准教授

(日本語日本文化教育センター)

データベース「日経テレコン」講習会

◆新聞記事・社会経済統計のデータベース「日経テレコン」について、提供会社（日経メディアマーケティング株式会社）から講師を招いて、利用講習会を開催しました。

●レポート編

- ・11月16日 箕面キャンパス
- ・11月18日 豊中キャンパス

●就活編

- ・11月10日 吹田キャンパス
- ・11月16日 箕面キャンパス
- ・11月18日 豊中キャンパス



就活編の様子

【参加者の感想】

- ・使い勝手がよく、幅広い用途があるデータベースで、情報収集の役に立ちそうです。
- ・具体的な企業・業界研究のやり方が分かり、参考になりました。

天文同好会写真展示 [総合]

◆11月15日～11月30日、大阪大学天文同好会が撮影した天体写真10点とその解説などを、総合図書館のB棟2階展示スペースで展示しました。

貴重書画像(適塾、懐徳堂)を公開

◆12月、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の事業により、国文学研究資料館のWebサイトにて、大阪大学で所蔵している適塾記念センター資料及び懐徳堂文庫資料の画像が公開されました。

(URL:<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/database.html#handai>)



図書展示

- ・ブックコレクション（書評対決）（毎月入替）[総合・生命科学・理工学]
- ◆生命科学図書館
 - ・インフルエンザ処方本（1～2月）
- ◆理工学図書館
 - ・芸術の秋（10月）
 - ・言葉・ことのは（12月）
- ◆外国学図書館
 - ・第53回 14冊の本棚「多読への誘い 14冊+α」（10月）
 - ・第54回 14冊の本棚「翻訳と日本語 14冊+α」（10～11月）
 - ・第55回 14冊の本棚「文豪アニバーサリー2016 14冊+α」（11～12月）
 - ・第56回 14冊の本棚「いま、あなたに読んでほしい 14冊+α」（12～2月）

Vol.50 No.2 通巻190号

2017年3月15日 発行

編集:大阪大学附属図書館

担当:坂本祐一、久世さとみ、六車彩都子

高原聡子、小松涼子、山本侑子

福永円、宮地佐保、是枝奈美江

住所:大阪府豊中市待兼山町1-4

Web:<http://www.library.osaka-u.ac.jp/>

E-mail:kohowg@library.osaka-u.ac.jp

Twitter:@OsakaUnivLib